

汐川干潟でアマモを確認

西 浩孝*

A record of the seagrass, *Zostera marina* from the Shiokawa Tidalflat of Mikawa Bay, central Japan

Hiroataka Nishi*

はじめに

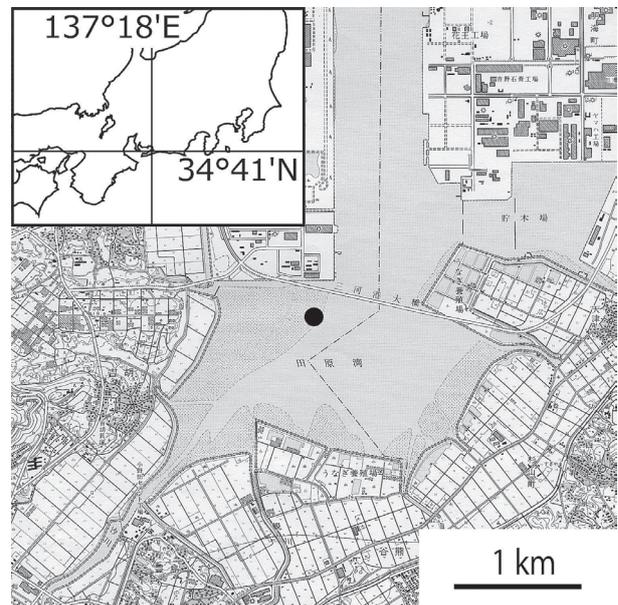
アマモ *Zostera marina* はアマモ科 *Zosteraceae* に属する海草の一種である。アマモやコアマモ *Z. japonica* といったアマモ類によって形成されるアマモ場は、基礎生産を担っているほか、多様な生物の生息場所となっている。

三河湾最奥部に位置し豊橋市と田原市にまたがる田原湾において、1935年ごろにはアマモ類が一面に生い茂っており、「モク」と呼ばれ農家の畑の肥料として用いられていた（小柳津, 1995）。しかし1970年の時点では、田原湾のアマモ類は湾口部にごくわずかに残るのみとなった（蒲郡市史編纂委員会・蒲郡市教育委員会, 1974）。そして近年は全く見られなくなっていた（汐川干潟保全検討会議（豊橋市・田原市）, 2001）。藤原ほか（2002）が田原湾の汐川干潟の植生を調査した際も、海草群落は発見されなかった。

筆者は愛知県田原市の汐川干潟において、本種の生育を確認したので報告する。

生育状況

調査を行った2010年4月15日は大潮であり、調査時は干潟が干出していた。田原市緑が浜地先の汐川干潟（第1図）において底生生物を調査中に、アマモ1株を発見した（第2図a）。葉は約5枚で、葉の長さは最大約35cmであった。葉脈は5本であった（第2



第1図. アマモの確認地点（黒丸）。

国土地理院発行2万5千分の1地形図「老津」使用。

図b)。底質は砂泥質であった。周辺にはアナジャコ *Upogebia major* の巣穴が多数あいていた。

周囲を探索したが1株しか発見できなかったため、採集は行わなかった。

考 察

汐川干潟から約8km北に位置する六条潟にはアマモ類が生育している（豊橋市自然史博物館, 2010）。

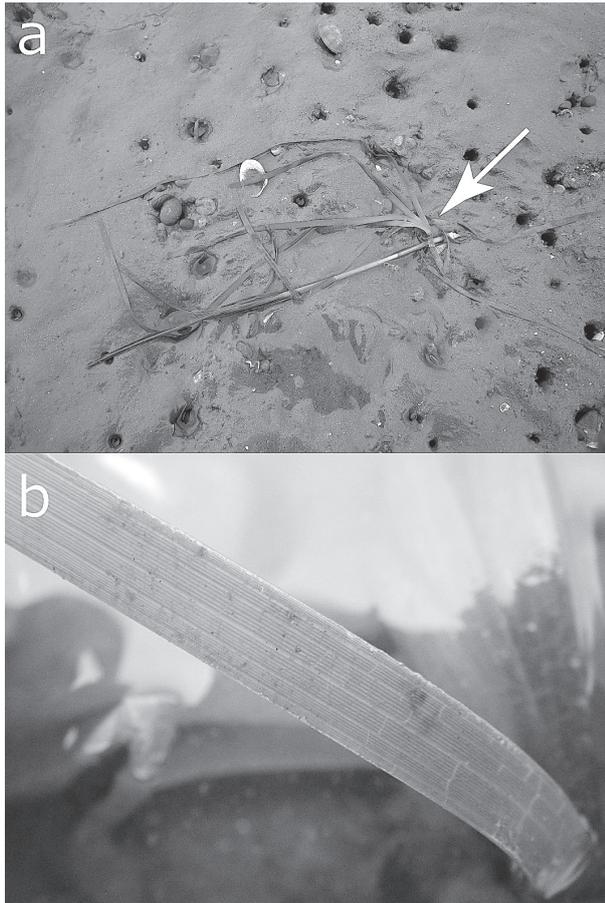
* 豊橋市自然史博物館. Toyohashi Museum of Natural History, 1-238 Oana, Oiwa-cho, Toyohashi 441-3147, Japan.

原稿受付 2010年12月16日. Manuscript received Dec. 16, 2010.

原稿受理 2010年12月26日. Manuscript accepted Dec. 26, 2010.

キーワード: アマモ, 海草, 三河湾, 干潟.

Key words: *Zostera marina*, seagrass, Mikawa Bay, tidal flat.



第2図. 汐川干潟で確認されたアマモ.

a, アマモ (矢印); b, 葉の拡大.

蒲郡市にもアマモ場があり、播種や移植によるアマモ場の再生事業が行われている(武田, 2005). 今回汐川干潟で発見されたアマモは、六条潟や蒲郡市など三河湾内のアマモ場から種子が流れ着き、発芽、生育したものと推測されるが、三河湾全体では1970年代以降ほとんど消滅していたアマモが最近復活のきざしがあり(小林, 2002), 湾奥部である汐川干潟においてもアマモ類の生育に適した環境が回復してきている可能性がある. 今後、汐川干潟にかつてのようなアマモ場が蘇ることを期待したい.

引用文献

- 藤原直子・木村妙子・藤岡エリ子, 2002. 三河湾汐川干潟の塩性湿地植生. 豊橋市自然史博研報, (12): 41-48.
- 蒲郡市史編纂委員会・蒲郡市教育委員会, 1974. 蒲郡市史. 蒲郡市, 愛知, 1019p.
- 小林元男, 2002. 渥美半島の植物. 東三林業振興会, 愛知, 口絵 56 + 201p.

小柳津 弘, 1995. 海を浄化する生きものたち. 東三河地域研究センター(編), 三河湾の生きものと自然, 東三河開発懇話会・三河港海洋利用研究会, 69-79.

汐川干潟保全検討会議(豊橋市・田原市), 2001. 平成12年度汐川干潟保全検討調査報告書. 汐川干潟保全検討会議事務局, 愛知, 70p.

武田和也, 2005. 三河湾の漁場環境の推移—干潟・浅場及び藻場を中心に—. 愛知大学総合郷土研究所紀要, 50: 図版 2p + 231-238.

豊橋市自然史博物館, 2010. 豊橋市自然史博物館ガイドブック ⑦干潟の自然～汐川干潟・六条潟・三河湾の干潟～. 豊橋市自然史博物館, 愛知, 63p.